
笑わないと損なのだ!!!

のω汰?

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

笑わないと損なのだ!!!

【Nコード】

N1025K

【作者名】

のω汰？

【あらすじ】

笑うことが苦手で：

上手に笑えなかった、高校生の「麻弓」

そんな麻弓の元に一人の男の子があらわれた。

その男の子は、麻弓の笑顔をみるため、さまざまな作戦を立てたが
：

第一章 感情

「でたあ、あの無表情な女の子」

今日も私のことをヒソヒソとみんなが話してる。

そんな少し有名(?) な私の名前は

高校一年生の、北野^{きたの} 麻弓^{まゆみ}。

あ、それでみんなが私の事をヒソヒソと話している理由。それは私が無表情だから。

私はよく人に「感情あるの?」って聞かれる。

よく分かんないけど、私はみんなにとっておもしろいことでもおもしろくないと感じてしまう。

だから、笑ったことがない…と言ってもおかしくない。

小さい頃はいつも笑ってた。

お母さんたちに囲まれて、いつも楽しかった。

なのに…「ある出来事」がキツカケで、私は笑うことができなくなった。

人間が感情をなくすことなんてあったんだ。

自分がその体験をして、改めて人間のすばらしさ（？）を知った気がした。

そして、その私が笑わなくなったその「ある出来事」

それは…

小学校一年生のある日。

私はいつものように友達と遊んでたんだ。

そしていつものように笑ってた。そしたらある日、成長期で歯が抜けていて笑ったときに歯がなくて…

それを友達に大笑いされた。

「わあ、麻弓の笑った顔変なお！！！！歯がないしおばあさんみた
い」

って…そしたら他の子もおもしろがって

「私もそれ思ってた！！！！しかもさ、麻弓、笑った顔キモイよね？
？笑わない方がいいよ」

て言ってきた。

私はそれだけでは負けないって思った。

でもそれを聞いたみんなは私にあだ名をつけたんだ。

「のろいの笑顔の女」

その日から私はみんなに

「のろい女が来たぞ！みんな笑わせないようになあー」

って大声で叫ばれからかわれ、みんなに避けられるようになった。

そして好きな人にもそういうわれるようになったんだ。

それがトラウマ。

もう笑いたくない。歯が抜けていなくても…笑顔を人に見られたくない。

そうやって楽しいことを笑わないですごしていくと次第に感情が薄れていったんだ。

第一章 感情（後書き）

第一話です。

第二話は明日、更新する予定です。

感想をお願いします。

第二章 私の感情は…？

ヒソヒソ コソコソ

いろんなところからいろんな声が聞こえる。

でも私は…なんとも思わない。

——感情を失ったんだから。

でも…、こんな私でも恋は何回かしたことある。

告白もしたことがある。

しかしそのたび、私はいつも同じように振られる。

「は？何言ってるの？のろい女」

この言葉も私が感情を失った理由のひとつ。

だからもういい。

のろい女なんていわれたくない。

でもわかんないけど…感情を失ったはずなのに、イヤ！って思うこ

とがたびたびある。

感情を失ったらうれしいこともいやなこともすべて感じなくなると
思ってたのに。

私はそれが疑問だった。

今日も私は廊下を歩きながら物思いにふけていた。

そしたら

ドン！

誰かにぶつかった。

「いってえー！！！」

その人はうずくまっていた。

別に肩が当たったくらいなのに大げさな人。

私は立ったまま、うずくまった人を見る。まるで、私がいじめたみたいになっている。

案の定、その人の周りには数名の人たちが…来た。そして口々に

「何なの！？あなた。ぶつかって何も言わないの！？」

「神経がどうかしてるわ。」

「当たり前よ。この仔は感情をなくした『のろい女』でしょ？」

「ああ、どうりで見たことがあると思った。」

という。

こんなの勝手に言わせておけばいい。

どうせ笑わないんだからのろいも何も関係ない。

私は、そう思ってまた歩き出した。

そしたら一人が

「アナタ！待ちなさいよ。ぶつかっというてその態度は何？」

って言ってきた。

私はその人を見る。そしたらその人は

「きゃあ！のろい女ににらまれたあ」

とか言ってさわいでる。

「何なの。自意識過剰。」

私はボソツとつぶやく。そしたら、うずくまっていた人が立って

「平気？怪我不い？？？」

って問いかけてくる。

「あ、はい。平気…すいませんでした」

私は一応頭を下げた。もちろん、謝る気など一切無い。

それをみた女の子たち。また、悲鳴を上げる。

「きゃああ！聞いた今の！？『あ、はい。平気…すいませんでした』
！？何あのしゃべりかた」

「本当、感情ないよね」

それを聞いて私はちよつとムカ！となった。だから…つい

「何言ってるの？感情無いのは前からでしょ？もしかして今改めて知ったの？ふうーん。まあ私の事見たこと無かったもんね。ウワサで聞いただけでよく立派なことがいえるよね」

って言ってしまった。

でもそのとおりだった。

あ…でもなんでだろう？

感情の無いはずの私がまた…怒りの感情が出てきちゃった。

不思議。

第二章 私の感情は…？（後書き）

今回も、感情について少し話しました。

皆さんはあんなことを言われて平気でいられますか？

私は無理ですね。しかし、感情がなければいいってことでもありません。

感情が無いのはつらいですよ。きっと…

コメお願いします。

第三章 不思議な男の子

「な、何なのあいつ？」

私がキレて、女の子たちはたじたじ。

「はあ？お前なに言ってるんだよ。本当の事でしょ？ウワサだけで人をいじめてんじゃないやねえよ」

私は更にキレる。そしたら、女の子は

「ふんっ、ウワサでも本当の事でしょう？ならいいじゃないの。のろい女」

って言うてきた。『のろい女』また言われた。

「ふん。そんなに『のろい女』って言うてくるんなら、笑顔見せてあげよおか??？」

私はにらみながらいう。女の子たちはそれを聞いて

「わああああ！のろわれるうー。逃げろオ」

って言うてどこかに走っていった。

「ふん、いい気味。」

私は小さい声で言った。そしたら私とぶつかってこけた人が

「…キミ、のろい女だったの？へえー、怖いな。ぶつからなかったらよかったなあー」

って言って逃げていった。

まただ。ぶつかっただけで何でそんなに…笑顔でのろい女なのになんでぶつかってのろい女なわけ？

「あ、すいませんでした…では失礼します」

私はちよつとあきれ半分で歩いていった。

そしたら後ろから

「ねえ…」って声が聞こえた。

「???」振り返ってみるとソコには男の子が居た。

「キミ、のろい女なの？」

って聞いてきた。

またかよ…まだ私に言ってくるのかよ。

「ウワサではそうなってます」

私はそっけなく言った。そしたら

「へえ、可愛いのにね」

って言うてきた。

へ…カワイイ？なんで…私が？

「は？」

けげんそうな顔で私は問いかける。

「ああ、いきなりごめんね。まあそう思ったただけだから。あ、ココにメールしてくれない？」

そういつて男の子はメアドを渡してきた。

そこには

「090—****—**** *
****@yapoos
.jp」

と電話番号とメアドを書いてあった。

「じゃあ…」

そういつて走っていった。

?
?
?
?
?
?

私の頭にはハテナが浮かんだ。

第三章 不思議な男の子（後書き）

不思議ですよー。

何でメアドなんて渡したんでしょうねえ…（汗

まあ、次回もお楽しみに♪

コメお願いします!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1025k/>

笑わないと損なのだ!!!

2010年10月12日20時21分発行